

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 1 区分
 【発行日】平成21年11月12日 (2009.11.12)

【公表番号】特表2009-522194(P2009-522194A)
 【公表日】平成21年6月11日 (2009.6.11)
 【年通号数】公開・登録公報2009-023
 【出願番号】特願2008-548580(P2008-548580)
 【国際特許分類】

C 0 3 B 5/04 (2006.01)

C 0 3 B 5/20 (2006.01)

【 F I 】

C 0 3 B 5/04

C 0 3 B 5/20

【手続補正書】
 【提出日】平成21年9月18日 (2009.9.18)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

ガラス供給材料を第 1 の溶融炉内で第 1 の温度に加熱してガラス溶融体を形成する工程と、

前記ガラス溶融体を前記第 1 の溶融炉から、耐火金属からなる接続管を通して前記第 1 の溶融炉から離れた第 2 の溶融炉に流す工程と、

前記ガラス溶融体を前記第 2 の溶融炉内で、前記第 1 の温度より高い第 2 の温度に加熱する工程と、

を含み、

前記接続管を通して流れる前記ガラス溶融体が、前記接続管によって前記第 1 の温度に実質的に等しい温度に加熱されることを特徴とする、ガラスを製造する方法。

【請求項 2】

前記接続管が、前記第 2 の溶融炉の少なくとも後壁内で加熱されることを特徴とする、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記接続管が、前記第 1 の溶融炉の前壁内で加熱されないことを特徴とする、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

ガラス供給材料を加熱してガラス溶融体を形成するための、前壁を含む第 1 の溶融炉と、

後壁を含む第 2 の溶融炉と、

前記ガラス溶融体を前記第 1 の溶融炉から前記第 2 の溶融炉に輸送するための、前記第 1 および第 2 の溶融炉を接続するための耐火金属管と、

を含み、

前記管が加熱されることを特徴とする、ガラスを製造するための装置。

【請求項 5】

前記第 2 の溶融炉の長さが、前記第 1 の溶融炉の長さの約 30%～50%であることを特徴とする、請求項 4 に記載の装置。